

窓辺

おだぎともこ
小田木朝子

大人になって 熱中した学び方

某経営大学院の授業を受けています。そこで、「こんな学び方があったとは」と驚き、引き込まれました。それは先生が一方的に教える講義形式ではなく、学生

同士が議論するディスカッション形式。先生は絶妙な進行役で、最後にテーマの構造や理論をまとめます。

題材は実際のビジネス事例で、事前に予習（これが大変）が必要です。経験にない事例でも想像し、つたない意見をまとめ、発言してみる。違う視点の意見に

新たな気付きを得る。正解できなくても、議論のプロセスから得られるすべてが実践で使える。勉強に「わくわく楽しい」と感じたのは初めてでした。

思えば私のこれまでの学びは受け身と丸暗記。学生時代は教えられることをそのまま聞き、社会人になってからは資格試験を丸暗記で乗り切ってきました。38歳の今、人生で一番主体的に学べていると思います。私もセミナー講師をする機会がありますが、参加者

の価値観は多様。置かれている状況も違います。そんな状況で、講師の一方的な考えや経験を聞かせるだけでは、何か違うような気がしていました。良い話を聞いた¹では何も変わらない。その後、行動に移せるか、実践できるかが、参加者の本当の関心だと思っております。

聞いたことを自分に引き寄せて考え、納得できるように解釈しないと、頭に残らないし、実生活では使えない。学びの過程で手や口を動かせば、セミナー後に行動するための実践演習ができません。学び手としても、教え手としても、まだまだ工夫の余地があるようです。

（育勉普及協会理事）